

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

|  |   |            |                      |
|--|---|------------|----------------------|
| 事業名  | 電子カルテ・DPC・レセプトチェック対応のための教育プログラム         |            |                      |
| プログラム名   | 専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業<br>若者の再チャレンジプログラム |            |                      |
| 法人名  | 学校法人 三幸学園                               |            |                      |
| 学校名  | 大阪医療秘書福祉専門学校                            |            |                      |
| 代表者  | 理事長 鳥居秀光                                | 担当者<br>連絡先 | 佐藤弘之<br>06-6300-5767 |
| <p>1. 事業の概要</p> <p>平成20年4月からの診療報酬改正に伴い、「医師事務作業補助体制加算」が新設された。具体的には、①カルテへの代行入力、②診断書等の文書作成補助、③医療の質の向上に資する事務作業、④行政上の業務(緊急医療情報システムへの入力等)の4点であり、このような業務を遂行する職員がいる病院は評価され、病院の収入増に結びつく。このようにこれからの医療事務職員に求められる資質は急速に変化しており、電子カルテやDPC、レセプトチェック、公費・総括に関わる知識や接遇対応など多岐にわたるスキルを必要とする。そこで、今回のプログラムではこの点に焦点を当て、電子カルテ・DPC(医療費の包括請求)を始め、レセプトチェック、実務には欠かせない公費総括などの幅広い現場で必要とされる教育プログラムを提供することにより、高次のスキルを習得し、再就職活動を有利に展開することを主眼に置いた。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>習得させた技術と知識は次の通りである。①電子カルテの必要性和入力操作方法と実践②レセプトチェックの基礎と応用③全国公費と大阪府公費・総括④DPC(医療費の包括請求)基礎知識とDPCシステム操作⑤医療人としての心構えと実践におけるメディカルマナーの教授。講習会内容は密度の濃い内容で、受講生からも大変満足をいただいた。科目ごとの知識が自信につながり、就職への意欲ともなったようだった。それぞれの科目の習得には個人差があるものの、一人ひとりが学ぶ意欲を沸き立たせ次のステップにつなげてくれたようだった。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>今回の受講対象者は、医療事務職の経験者である。その方々に電子カルテとDPC(医療費の総括請求制度)及び医療事務に付随する高次のスキルを習得させる。そして今までの医療事務職の経験や勉強した事を活かし、再就職活動を有利に展開、社会復帰を果たすことを主目的とした。習得させた知識と技術は次の通りである。習得させた技術と知識は次の通りである。①電子カルテ概要と入力操作方法②レセプトチェックの基礎と応用③全国公費と大阪府公費・総括④DPC(医療費の包括請求)基礎知識とDPCシステム操作⑤医療人としての心構えと実践を通したメディカルマナーの5点である。成果の総括として、まず、電子カルテとDPC導入の必要性和意義、さらには就職への意欲を沸かせる日々の実務経験の話を受講生にきちんと伝えられた点を挙げておきたい。今回の訓練を受けたことにより、当初の目的どおり、受講した全員がこれらのスキルを活かした職業に就きたいと思うようになってくれたことも大きな成果と考える。実施時間数は、総時間数120時間のうち、電子カルテに54時間、レセプトチェックに30時間、公費・総括に12時間、DPCに12時間、メディカルマナーを12時間で行った。講習の大半に使用したパソコンに対しては、不慣れな方はあまりおらず、概ね問題なく進んだ。また受講者の大半が、結婚・子育て、就職難等で医療現場を久しく離れていた。そこで、医療事務の基礎知識の振返りを「電子カルテ」の授業時に触れたことで、その後の授業や医療事務全体のスキルアップに大いに役立ったと思われる。</p> |   |            |                      |

### ③今後の活用

今後は、実施回数を拡充することで、当講座を継続的に開設し、地域における高度な電子カルテ等関連スキルを身につけた人材の育成を図り、魅力ある地域づくりに必要な教育機関の核として地域社会に貢献する。今後ますます電子カルテやDPCを導入する医療機関が増え、このスキルを身につけた人材が活躍する場が現場より求められることは確実である。したがって当校の果たす役割も大きいものがあると考ええる。

### ④次年度以降における課題・展開

展開に関しては、前述の「③今後の活用」とも重複する点があるが、本カリキュラムを提供するに当り、課題が残った。それは、高次の様々なスキルを短時間で提供するあまり、1つ1つのカリキュラムが内容の濃いプログラムを組むあまり、内容に対し時間数が少なかったことである。このプログラムを初めて開発し手がけたということもあるが、当初想定していた時間数とカリキュラムでは十分な内容を講義する事が一部難しかったものがある。今後は、バランスよく講座配置をしたプログラムの再構築の必要性を感じた。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①履修証明書等

- ・講座総時間数 120時間
- ・1日当りの時間数 6時間
- ・履修証明書発行人数 12名

### ②カリキュラムの内容

#### ・テーマ

前述の「1. 事業の概要」と一部重複するが、平成20年4月施行の診療報酬改正により、「医師事務作業補助体制加算」が新設され、医療機関での医療事務員の求められるスキルが高まった。電子カルテ・DPC等のスキルを身につけた人材の確保が経営上、重要となる。電子カルテ・DPC(医療費の包括請求)を始め、レセプトチェックや実務には欠かせない公費・総括などの幅広く現場で必要とされる教育プログラムを提供することにより、高次のスキルを習得し、再就職活動を有利に展開することを主眼に置いた。そこで、医療機関従事経験がある方を対象(もしくは資格取得者)に、さらに高次のスキルを身につけ就職活動を有利に展開、社会復帰を目指す教育プログラムを提供する。

### ③講座の実施

- ・日程 平成21年1月16日(月)～平成21年2月26日(金)の中で計20日間、総時間数120時間
- ・入学者 15名(女性のみ)
- ・実施場所 日本医療事務協会 大阪梅田教室

### ④支援対象者(受講者)の状況

修了者12名。(途中、家庭事情で退校者あり。)出席率もよく、熱心に授業を聞きクラスでのチームワークも良かった。ほぼ全員が再就職を希望している。この方々に就職支援として次の2つを実施(②は予定)した。①当校グループ会社(人材紹介・人材派遣)への登録、②求人情報の提供(予定)